

# 拠点集約で作業効率アップ

ハマダ自動車工業（大阪府守口市）

大阪市の北東部に隣接し、ベッドタウンを形成する衛星都市のひとつ守口市。多くの自動車工場がしのぎを削るこの地域に工場を構えるハマダ自動車工業は、今年4月に工場を移転。これまでの2拠点体制から、新工場の1拠点体制になったことで、無駄のない効率的な作業環境を実現した。

## ■設備投資が宣伝効果を生んだ

創業は1970年（昭和45年）。濱田順之輔社長が25歳で独立した。折しも自動車産業の成長期。黙っていても仕事は入ってきた。昼間は夢中で作業をして、夜は黙々と見積りを作った。「連日、夜遅くまで仕事をしていた。体はしんどいが、楽しかった」という。車の好きな若者も多く、口コミによる一般客も多かった。

設備投資にも他に先駆けて取り組んできた。ポデー修正装置など、導入していない工場が多いなかで、近隣の同業者から使わせてほしいと頼まれたことも少なくなかったという。設備を備えた工場であること、それは結果的に広告宣伝と同様の効果をもたらした。

## ■未来に向けた布石

山崎裕久工場長を迎えたのは、将来を見据えてのこと。ディーラーでフロントや工場責任者の経験を積んだ山崎工場長は、同社に



濱田順之輔社長（前列中央）、山崎裕久工場長（前列右）

新しい可能性を生み出した。「その視野は広く、多様性がある。取引先との折衝にも長けている」（濱田社長）。

新工場への移転もまた、これからへの布石。2拠点に分かれていた板金と塗装の工場を集約し、無駄な材料費の節減、作業効率の改善を図った。

拠点間の車両移動の手間が省け、駐車場を別に設けたことで工場内を広く使えるようになった。結果、処理能力が月間50台から70台に向上したという。

## ■時代にマッチしたものを選ぶ

10年、20年と勤務するスタッフが多いことも同社の強みのひとつ。長く働きやすい職場環境を作るため、気を配っている。「スタッフは、職人気質で自分の仕事にプライドを持っている。それを斟酌したうえで関係を築くよう心がけている」（山崎工場長）。

このほか、塗装ブース内の有機溶剤量の測定、マスクの着用、労働時間など、労働環境の改善にも努めてきた。「働く人の健康を重視することが、よりよい会社であることにつながるはず」（濱田社長）との思いがある。

とはいえ、従業員満足度だけを優先しているわけではない。「技術者が慣れた材料よりも、時代にマッチしたものを選ぶ」（山崎工場長）。目の前の現状に満足しているだけでは、刻々と変化を続ける世間に対応できなくなる。これからは、水性塗料の導入も見据えた取り組みを考えている。

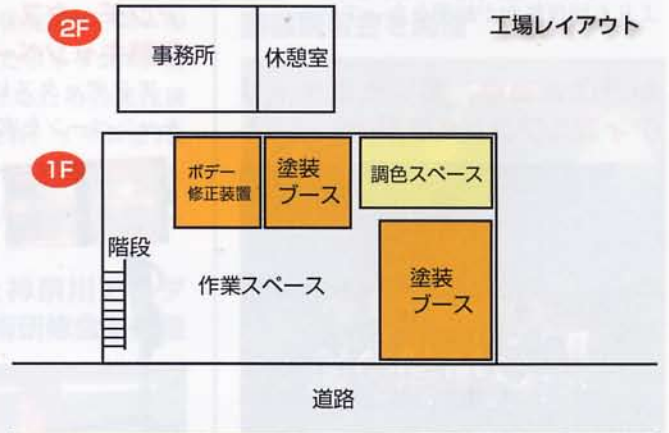


## ■直接客はプラスアルファ

現在、一般整備工場やディーラーからの仕事、リース会社指定工場としての仕事を中心。当然、直接客の開拓も考えないわけではない。実際、大阪市内と同じ市外局番（06）であり、地理的にもすぐ隣。感覚的には大阪市内と変わらない。加えて、守口市はベッドタウンでもあり、ターゲットとなる客はたくさんいるだろう。

だが同時に、懸念もある。直需は安定的な入庫が見込めず浮き沈みが激しい。加えて、来店を促す仕掛けが必要。「自社のホームページや広告など、なすべきことは多い。ならばむしろ、自社の特性をしっかりと持つことのほうが大切ではないか」（山崎工場長）と気づいた。認証取得や、車体整備士資格など、必要な資格を備えることが、保険会社やディーラーへのアピールになるはず。やみくもに直需を開拓するのではなく、確固たるものを築いたうえで、結果的に直接客が増えることが望ましい。「修理品質の向上を常に念頭に置き、これからも取り組んでいく」（濱田社長）。

（坂本裕美）



### ハマダ自動車工業

■代表者=濱田順之輔 ■所在地=大阪府守口市南寺方東通2-8-8 ■創業=1970年 ■スタッフ数=7人 ■敷地面積=330.6㎡(100坪) ■工場面積=281.8㎡(85坪) ■ボデー修正装置=ブラックホーク製 ■塗装ブース=CAB-07ほか1基 ■塗料=プロタッチ